

令和8年度

— テーマ・水について考える —

水の週間記念作文集

第48回 「全日本中学生水の作文コンクール」 三重県推薦分

目次

（掲載順は、各賞低学年から、学校名・氏名とも五十音順）

第48回全日本中学生水の作文コンクール	佳作	
第23回琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール	流域賞	
私にできること	高田中学校	一年 藤崎 柚衣 1
第48回全日本中学生水の作文コンクール	佳作	
水はみんなで守るもの	鈴鹿中等教育学校	一年 大原 晴斗 3
水と生きていく	高田中学校	一年 賀川 紗菜 5
水の持つ様々な顔	高田中学校	一年 杉本 ころ 7
水の大切さについて考える	高田中学校	一年 山中 美怜 9
第48回「全日本中学生水の作文コンクール」について		 11

佳作・流域賞

私にできること

高田 中 学 校

一 年

藤崎 柚 衣

「琵琶湖の水は昔、きれいやってんで。」

私の祖父は子供の頃、裏庭が琵琶湖に面している家に住んでいたそうです。毎朝、一日分の水を「水がめ」という容器に一杯、琵琶湖からくんでくるのが子供の仕事で、その一杯の水で食事から食器洗いまでのすべて琵琶湖の水で生活していたそうです。毎日使っていたその水がめは、今は祖父の家にあって、私は何度も見たことはあったけれど、祖父の家族六人でこの量で足りるの？と思うほど小さく、一日分の水を入れるものとは思えませんでした。五人家族の私の家では絶対に足りないと思うような量です。祖父は「顔を洗うのも歯を磨くのも琵琶湖の水で、琵琶湖の水は自然が浄化してくれていたんですよ。」と話してくれました。

一昨年の夏、私は滋賀県高島市であった曾祖父の法事で、琵琶湖の見えるホテルに泊まりました。初めて

見た琵琶湖の水は、きれいだったけれど、祖父が言っていたこととは違い、水面は緑色ににごっていて、飲めるような透明の水ではありませんでした。本当に海じゃなくて湖なの？と思うほど、琵琶湖は広くて水でいっぱいでした。

祖父が話をしてくれたことで、私はなぜ、琵琶湖が汚れてしまったのか知りました。生活が便利になるにつれて、工場や家庭から出される水や洗剤に含まれる窒素やリンが原因で琵琶湖の水質が悪化し、少しずつ汚れていってしまったそうです。

今の私の生活は、蛇口をひねれば、水が出るのが当たり前になっていたので、「今日は一日これだけの水で過ごそう。」なんて思ったこともないし、お風呂では、母に「シャワーを出しっぱなしにしないで！」とよく叱られます。祖父の時代ではみんなが限られた水への

感謝の気持ちを持っていたのに、今の私の生活では、当たり前のように毎日水を使うことで水を汚して無駄にしていたかも知れない、ということなど考えたこともありませんでした。

先日、テレビで豊川用水の貯水率が下がってきたので節水を呼びかけているというニュースを見ました。私は雨が降らないと水がなくなるということを考えたこともありませんでした。雨が自分たちの使っている水とつながっていることも考えたことがありませんでした。雨の日は学校へも行きにくいし、濡れるのできらいだったけれど、水不足になるのはもっと困るので、「雨の日も大事なのだ。」と思えるようになりました。祖父が子供の頃に琵琶湖はいつもきれいと思っていたけれどそうではなくなったように、私が見た水でたっぷりの琵琶湖もいつか水がなくなってしまうかもしれないと思うと怖くなりました。

私たちが自分の水の使い方を変えただけで水が汚れたり、なくなったりすることを防げるのだと思います。シャワーをこまめに止めたり、歯磨きや顔を洗っているときも、水を流しながらするのではな

く、コップに溜めてからするなどちょっとした工夫を実際にみんながすると、いろいろな場所で少しずつ環境が変わっていくのだと、私は思います。水が蛇口から出るのは、当たり前ではなく、自然が与えてくれた物です。服に油性ペンで書くのは簡単でも、消すのは難しいように、水は簡単に汚れてしまいうけれど、なかなか元のように戻すのは長い年月と多くの人の努力が必要で、とても難しいということを知りました。私たち一人一人が水の使い方を変えるだけで、水が汚れにくくなったり、水不足を防げたりすると思います。限られた水を未来へ残していくために、私はこれからも水の大切さを考え続け、祖父が話してくれたきれいな水にするために、普段の生活から心がけて、自分から水の一滴一滴を大切に使い続けていきたいです。

佳作

水はみんなで守るもの

鈴鹿中等教育学校

一年

大原晴斗

水は、僕たちの生活に欠かせない。朝の洗顔、炊飯、洗濯、お風呂、のどを潤す冷たい水。あまりにも身近で当たり前だと思っていたけれど、中学生になった今、この水が届くまでには多くの人や自然の力が働いているのだと気づいた。

まず、家で使ったあとの水を考えてみる。汚れた生活排水がそのまま流れたら、三重の川や海はすぐに汚れてしまう。それを防ぐのが下水道と下水処理場の仕組みだ。処理場では目に見えない微生物が汚れを分解し、魚が安心して住める状態にしてから川へと戻している。誰かの努力や小さな命の働きで、水が再び「自然の一部」へと再生されているのだ。

水が一番の守り神は「森」だと思う。山に生い茂る木々の根や土が天然のフィルターとなり、雨水を一度受け止め、ゆっくり地下へ貯めていく。この過程で水

はろ過され、清らかな水へと磨かれる。三重県には山が多く、鈴鹿川などの川が澄んでいるのは、この「緑のダム」としての森が豊かだからだ。森を守ることは、僕たちの命の水を守ることそのものなのだ。

しかし、水の美しさが危機にさらされている場面も目にした。海亀を守る清掃活動に参加したとき、砂浜には大量のゴミがあつた。特に細かく砕けた「マイクロプラスチック」は、多くの海洋生物がエサと間違えて食べて命を落とすと聞き、胸が苦しくなった。人間が捨てたゴミが、水という道を通って生き物の命を奪っている。その現実には強い責任を感じ、僕はゴミを拾わずにはいられなかった。

それ以来、散歩道でゴミを拾うのが習慣になった。これは十二年間一緒に過ごした愛犬「ソラ」との歩みから始まった。ソラとは毎年、津の御殿場海岸や亀山

の石水溪へ泳ぎに行った。透き通った水の中でソラとはしゃいだ時間は、僕の宝物だ。石水溪は水だけでなく、森も岩も空気もすべてが澄んでいる。何千年も前から変わらないこの自然を壊したくないという気持ち、胸の奥から湧いてくる。

昔の言葉に「上善如水」というものがある。最高の生き方は水のようなものである、という意味だ。水は争わず、常に低い方へ流れながら、黙ってすべての命を支えている。石水溪の清流を見ると、水にはそんな「謙虚で、でも揺るぎない強さ」があると感じる。平和な日本で暮らしているからこそ、僕たちは、人間もこの水の姿をお手本にして、自然や他者と争わず、共に生きていく道を考えるべきではないかと思う。この景色を守ることは、水の持つ優しさや強さを僕たちが受け継ぐことでもあると思う。

今年の冬、ソラは天国へと旅立った。寂しいときは、ソラの名前と同じ青い空を見上げる。雲も、もとは海や川から蒸発した「水」だ。雲はやがて雨となり、大地を潤し、森で磨かれ、また僕たちの蛇口まで届く。この循環を考えると、空にいるソラが恵みとなって地

上に降り注ぎ、僕のもとへ帰ってきてくれているような気がする。御殿場の海も石水溪も、すべてはこの空とつながっているのだ。

「水も空も、ずっときれいなままできてほしい」。この切実な願いこそが、僕が水を守りたい一番の理由だ。水を大切にすることは、ソラとの大切な思い出を守ることに同じだ。

中学生になり、僕の行動範囲は広がった。今後は環境についてより深く学び、川の掃除などにも積極的に参加したい。一人ひとりが「水を汚さない」という優しさを持ち寄れば、この美しい循環は未来へと続くはずだ。

水は命の源であり、空のソラともつながっている。蛇口から出る一滴にも物語がある。僕はこれからも感謝を忘れず、このきれいな水を守り続ける一人でありたい。今日も「ありがとう」と心の中でつぶやきながら、僕は大切に蛇口を閉めている。

佳作

水と生きていく

高田 中学 校

一年

賀川 紗 菜

人間は、水と生きています。

人間は水を利用することで生命活動が続けることができます、循環の大きな輪をつくることでできているのです。私たちの日常である、歯を磨く、水を飲む、そんなちよつとしたことでも、水を使った生命活動です。

私の住んでいる三重県松阪市は、農業や畜産業が盛んです。私のおじいちゃんも家で農作物を育てていま

す。初めて手伝ったときに驚いたのが、本当に水をたくさん使うことです。農作物も、私たちと同じように水がないとだめなんだと改めて実感しました。また、小学校の社会見学で、日本三大和牛の一つである松阪牛を育てている高校にお邪魔しました。やはり牛も、水を飲んでいたので、人間の一日の水分摂取量が約二リットルなのに対し、牛の一日の水分摂取量は約百リットルということを知り、この世から水が消え

る。もし、そんなことが起こったら、存亡の危機に陥るのは人間だけではないんだなとしみじみと感じました。飲み物もないし、農業に使う水もないため、作物を育てることもできません。「危機」どころではなく、生物は真の「絶体絶命」という状態に陥ってしまうのです。そのくらい、私たちの生活を支えているものが「水」なのです。

私は、私たちの生活のもととなっている水がどうしてできたのか気になりました。調べてみると、岩石に含まれていた水蒸気が火山の爆発によつて空にふきあげられ、雨となって降りそそいだということがわかりました。その時の地球から水は減っていないこともわかっています。古代の水が今も残っている、地球の神秘を知ったような気がして感動しました。自然の水循環がこの世界の秘密だったのかもしれない。

世界で、水不足の地域で生活している人々は約四〇億人。清潔な水が手に入らない人は約二二億人いるといわれています。水道水を直接飲める国は十か国をほどこありません。蛇口をひねれば水が出る。水道水が飲める。トイレが使える。そんな私たちの日常が世界では通用しない。私が、「行ってきます。」と水筒を片手に、学校に知識という宝物をもらいに行っている。その時、乾燥した地域に住む子どもたちは水が入ったバケツを宝物のように大事にかかえて歩いているのです。現実を突きつけられ、生まれた場所によって人生まで変えられてしまうのだと心が痛みました。

私は、不思議に思いました。

私の身の周りには水がたくさんあります。でも、この世界には水がなかなか手に入らなくて困っている人がたくさんいるのです。なぜなのか調べてみました。すると、アフリカや中東では、乾燥しているうえに雨がなかなか降らないということがわかりました。他にも、水道管が老朽化していて、水は流れているのに、途中で大量の水が漏れている国や、工業用水やゴミが川に流れ込み、安全な水が利用できない状況にある国

もありました。

私たちが今すぐからでもはじめられそうなのは、ないのかと考えていたら、ゴミ拾いをしたらいいと気づきました。一人一個ゴミを拾うだけで、世界のすべての人々が拾うと、約八三億個のゴミが拾えるのです。ゴミを減らすことは、水質汚染の改善に直結すると思うので、朝の散歩の時間にゴミ拾いをしようと思います。

次の日、ゴミ拾いをしていたら、まだまだできるところがあるような気がしてきました。そして私の生活を振り返っていた時に、ハッとしました。なんでもったいないことをしていたんだろう。私は、手を洗うときに、水道をだしっぱなしにして、石けんで手を洗っていたのです。後悔が押し寄せて、これからは絶対こんなことはしないと心に刻みました。これで少しでも節水につながったらいいな。

佳作

水の持つ様々な顔

高田 中学 校

一年

杉本 ころもと

蛇口をひねれば、水が勢いよく流れ、私たちの日常において、水は空気と同じように当たり前のものとして存在しています。

私が小学校低学年のころに読み、今でも強く心に残っている絵本があります。「みずをくむプリンセス」です。主人公の少女は毎日学校に行くこともなく、重いかめを頭に乗せて遠い道のりを歩きます。そして、ようやく辿り着いた場所にあるのは決してきれいとは言えない、にごった泥水でした。その水を家族のために運び、貴重な一滴として使う姿は、当時の私に大きな衝撃をあたえました。私たちが無意識に、時には無駄にさえしてしまう水は、世界中の誰にとっても当たり前にあるわけではないことや水の大切さと世界の現状について考えるきっかけとなりました。その上、私たちが日々使用している清潔な水は、実はとても幸運

で有り難いものだということを改めて感じさせられました。

しかし、水は「命の源」であるだけではありません。水の持つ多面的な姿もあります。毎年のように日本をおそうゲリラ豪雨や線状降水帯による水害。一瞬にして家を流し、命をうばう脅威へと変化します。全てを破壊する厳しさも持ち合わせていることに気付かれます。

そんな厳しさの一方で心穏やかになる記憶があります。祖母が暮らす地域は、水が非常に豊かで目の前には透明度の高い海が広がっています。幼いころは、夏になると川に入って夢中で魚を追いかけたり、海水浴を楽しんだりしました。透明度が高く澄みきった海が広がる風景は私にとって癒しになっていました。

また、水は日常生活だけにとどまらずありとあらゆる

る所で使われ、重宝されています。例えば、私が通う
う中学校の周りは田んぼに囲まれています。田んぼで
お米を育てようと考えたら水がたくさん必要になり
ます。それを毎年行ったら、もっとたくさん水がな
ければなりません。

他にも毎日食べたり飲んだりするものにも水が使
われています。みそ汁を作るにも、お米をたくのにも、
水はなくてはならない唯一無二の存在なのです。

私たちは、生きるために不可欠なパートナーである
水の多面的な顔を正しく理解し、真剣に向き合ってい
くことが大切です。水の危険な一面。癒しにもなり心
を落ち着かせてくれる一面。便利で、人間と唯一無二
である一面。そして忘れてはいけなのが清潔な水が
当たり前のように手に入り使えるのが幸運なこと
です。水をくむプリンセスのように時間をかけても手
に入れたいものを手に入れることが出来ない人もいま
す。水には様々な顔がありますが、自分が恵まれた環
境に生まれることが出来たことを有り難く思いた
いです。

これから、今までよりも一層、水の有り難さを考

えながら生活していきたいです。水の無駄遣いには特
に気をつけていこうと思います。当たり前だと思っ
ていることも、心がけ意識することで、よりよい世界
へと変化していくかもしれないからです。

佳作

水の大切さについて考える

高田 中学 校

一年

山中 美 怜

私は、普段何気なく使っている水の大切さについて考えました。きっかけは、ある日のニュースです。雨が何日も降らず、貯水率がほんの数%しか残っていないという映像でした。そのニュースを見るまで私は、蛇口をひねれば当たり前に水が出てくると思っていたのですが、この当たり前は実はとてもすぐになくなってしまふものだと思いました。

このニュースを見てから、私は「節水」を強く意識するようになりました。歯を磨いている間に水を出しっぱなしにしないことや、シャワーを出す時間を短くすること、洗面器を使って水を大切に使うことなど、まずは自分にできる小さなことから始めています。調べてみると、全国には水不足によって、節水を呼びかけている県や市町村がたくさんあることを知りました。

ここで、私は一つの疑問を持ちました。小学校の社会科で、海の水が太陽の熱で蒸発して雲になり、その雲が雨を降らすという「水の循環」を習いました。一方で、地球温暖化によって気温が上がっているというニュースもよく見ます。もし温暖化で暑くなっているのなら、海の水の蒸発も増えて、むしろ雨は降りやすくなっているのではないか、と思いました。

そこで調べてみたところ、予想外な事実がわかりました。地球温暖化の影響で、日本付近では「太平洋高気圧」という空気の壁の勢力が強まっています。その強い高気圧が、雨を降らす雲や偏西風を北の方へ押し上げてしまうのです。その結果、日本列島は乾いた暖かい空気におおわれ、雨が降らないのに気温だけが上がる厳しい夏に去年はなっていました。温暖化は、ただ暑くなるだけではなく、雨の降り方のバランスま

でこわしてしまっています。

まず、節水を調べていく中で「節水は節電や省エネにつながる」という言葉に出会いました。最初は水と電気がどうつながるのか不思議でしたが、水道水ができるまでの仕組みを知っておどろきました。

私たちが使う水道水をつくるためには、実は大きな電気が必要なのです。具体的なデータを調べると、まず川から浄水場へ水を運ぶだけで約七十四億kWhもの電力が使われ、二酸化炭素は約四十万から六十万トンも出ます。さらに、水をきれいにする工程で約十億から十五億kWh、そして浄水場から私たちの家の蛇口まで届けるポンプを動かすのに、約五十二kWhもの電力が必要です。これらを合計すると、私たちが水を使うたびに、目に見えないところで大量の電気が消費され、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が出ていることになります。

最近では、太陽光発電を取り入れたり、浄水場の周りの森林を管理して二酸化炭素を吸い取ったりして、環境を守る工夫をしている浄水場もあるそうです。しかし、供給側の努力だけでなく、使う側である私たち

が水の無駄遣いを減らすことが、一番直接的な解決策になります。

このまま地球温暖化が進んで気温が上がり続ければ、水不足がもつとひどくなり、作物が育たなくなつて食べ物にも困るようになるかもしれません。節水をすることは、電気やエネルギーを守り、地球温暖化をおくらせることにつながります。それは、私たちが飲む水だけでなく、未来の食べ物や地球の環境を守るにとでもあります。

私はこれからも、蛇口をひねる前に、水の一滴をつくるために使われたエネルギーや、水の向こう側にある自然のことを想像していきたいと思っています。「たかが一滴」と思わずに、これから大切に水を使っていこうと思いました。

第48回「全日本中学生水の作文コンクール」について

「水の週間」（8月1日～7日）行事の一環として実施された、第48回「全日本中学生水の作文コンクール」の概要は次のとおりです。

1 応募要領

- (1) 課 題 「水について考える」（題名は自由）
- (2) 原稿枚数 400字詰原稿用紙4枚以内
- (3) 募集期間 令和8年1月14日～令和8年5月8日
- (4) 版 権 等
 - ・応募作品は自作未発表のものに限る。
 - ・応募作品の返却は行わない。
 - ・入選作品の著作権は主催者に帰属する。

2 地方審査

第48回「全日本中学生水の作文コンクール」審査基準に基づく審査により、優秀作文5編を決定しました。

審 査 員（4名）

三重県中学校国語教育研究会会員

三重県環境生活部環境共生局大気・水環境課職員

三重県企業庁企業総務課職員

三重県地域連携・交通部水資源・地域プロジェクト課職員

3 三重県の応募状況

応募学校数	応募総数	学 年 別		
		1 年 生	2 年 生	3 年 生
4 校	362 名	181 編	180 編	1 編

4 中央審査

各都道府県から推薦された優秀作文は、国土交通省におかれる中央審査会で審査され、最優秀賞1編、優秀賞9編、入選30編、佳作（最優秀賞、優秀賞、入選を除く作文）が決定されました。

5 主催・共催

主催 水循環政策本部、国土交通省、三重県

共催 琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実行委員会

6 その他

優秀作文5編については、「琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実行委員会」（構成団体：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）でも審査され、流域賞1編が決定されました。

